

小学校とのつながり、地域への気づき	(2) 小学校との連携・交流
民間保育園	ルーチェ保育園 千葉新田町
<b>&lt;実施時期&gt;</b>	11月～2月
<b>&lt;幼児期の終わりまでに育って欲しい姿に繋がる部分&gt;</b>	
「共同性」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」	
<b>&lt;活動のきっかけ&gt;</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小学校に行ったら」という子どもたち自身の言葉が多くなってきた時期、「自分で歩いていく」「家から学校までは近い・遠い」などの会話も増えてきた。</li> <li>・同じタイミングで園外保育として職場見学が予定されていた。園から近いところにヤクルトがあり、地域の気づきとなることから、子どもたちと行くことを決める。</li> </ul>	
<b>&lt;活動のねらい&gt;</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小学校」への興味から、園又は自宅から学校までの道のりや、道路、道路標識に対する気づきを持てる。</li> <li>・地域へのかかわりを持ち、社会へのつながりを感じたり、自ら接することで他者の存在に気づき親しみや安心感を感じる。</li> </ul>	
<b>&lt;経験する内容&gt;</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・園から目的地まで交通ルールに注意したり、標識に気づきながら歩く。</li> <li>・地域の方（園外の方）とのかかわりを持つことで、社会とのつながりに気づく。</li> <li>・友達と意見を交わしたり、共通の体験を通して共通理解や共感できる気持ちを体験する。</li> </ul>	
<b>&lt;新型コロナウイルス感染症に対する活動の工夫&gt;</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問先の方とも事前の連絡の中で、混まない時間帯（訪問時間）や感染症対策などについて話し合う。当日は子ども9名、保育者2名と最低限の人数でうかがう。（子どもを含め、全員がマスク着用）</li> <li>・小学校との交流がコロナの影響で中止となるため、小学校の園庭解放の日とうかがうことで、学校への道のり、小学校の雰囲気を感じられるようにした。</li> </ul>	
<b>&lt;活動の内容&gt;</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちと園外保育（ヤクルト）について話し合いを行う。 （質問したいことは何か？不思議に思っていることは何か？など）</li> <li>・当日は目的地に向かう途中で、道路の危険箇所や標識、子どもたちが知っている建物に着目しつつ向かう。（止まれの標識、信号の色の意味など）</li> <li>・現地で職場見学や質問を自分たちで行うことで、社会とのかかわりを体験し、交流を深めようとする。また、自ら質問することから考えたり、伝える体験をする。</li> <li>・終了後には子どもたちが地図をつくり、園からヤクルトまでの道のりを描いたり、その地図の中に気づいたこと、見つけたものを描きあらかず姿が見られた。その気づきから「みんなのいく学校は？」と声掛けをすることで、位置感覚への気づきを持てるようにする。</li> <li>・その後、デザインでも同様のとりくみを行う。自分の住む地域や道路を表現し、ほかの子どもたちと一緒に組み立てたり、つなげることで他社や地域とのつながりに気づく体験とする。</li> </ul>	

<b>&lt;活動でみられた子どもの姿&gt;</b>	<b>&lt;環境構成・教材や保育者の援助等&gt;</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的地に向かうまでの間で、たくさんの標識に気づき、その意味まで理解している子どもが多くいた。</li> <li>・職場見学では、緊張しながらも自分たちで考えた質問をして、メモをとったり、見学を楽しんでいた。</li> <li>・会話や挨拶をしっかりとかわす姿から、普段の園生活ではみられない子どもたちの自立した姿がうかがうことができた。</li> <li>・園外保育終了後、他の子どもたち（4歳・3歳児）にも体験したことを話したり、教えたりすることで、違う交流を深め、また自分の体験を言葉にすることができた。</li> <li>・画用紙に園からヤクルトまでの道を描いたり、途中で見つけたものを示していた。その中で、「僕の家はこの辺りかな」「保育園はこの辺りかな」「〇〇小学校は？」と別の場所、地域への興味も引き出されていた。</li> <li>・小学校内に入っての見学は難しかったが、近いところにある公園に行ったり、通学路となる道をたどって公園に行くことで、「こっちに〇〇小学校があってね・・・」と話す子どもも多くいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路標識は保育室の中に一覧を貼り出し、子どもたちが絵本を見るような感覚で気づき、友達や保育者と興味をもって会話ができるようにした。</li> <li>・子どもたちが見学先をイメージしやすいように、「ヤクルトって知っている？」という問い掛けから、「いつも飲んでる！」「バイク見たことある！」など知っていることから今回の見学につながるよう声掛けを工夫した。</li> <li>・普段から異年齢保育のため、1学年のみの体験であっても、自然と子ども同士で教えたり、伝えたりする環境となっている。</li> <li>・制作や絵を描くことが好きな子どもも多く、自然と描き始めた。「みんなにも教えてあげよう！」と提案し、画用紙や色鉛筆など、子どもたちが必要なものを用意して対応した。できた作品は廊下に掲示することで、子どもや保護者にも伝わるように工夫。</li> <li>・兄弟で上の兄・姉が小学生という子どもも多かったので、「みたことある」「知っている」ということもあった。園では「小学生の一日」という絵本から、学校生活について知らせられるようにした。</li> </ul>
<b>&lt;成果と今後の課題&gt;</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナで訪問先や子どもが使える移動手段が限られてしまい、今回は一件のみの見学となった。本来であれば、保育園、小学校、自宅、その他子どもたちの生活に関わる地域環境を大きな地図にして、ひとつずつ記録を増やしていきたくかった。コロナの環境、制限を踏まえたうえで、より学校との連携をとり、就学に向けてのアプローチができるように今後の課題としたい。</li> </ul>	
<b>&lt;カリキュラムコーディネーターのコメント&gt;</b>	
<p>コロナ感染症拡大の影響で制約のある小学校訪問となりましたが、地域にある施設の1つとして小学校と関わったり、子どもたち同士で体験したことについて語り合ったりすることは子どもの日常生活の中で無理のない取り組みになりました。雰囲気を感じることによって、小学校や小学生に興味・関心を持つことができ、入学に対する期待が高まったと思います。</p>	